

各 位

2024年12月2日
株式会社インプレス**DX・事業変革のための教科書『チームでの未来戦略の描き方 はじめてでもできるDX・事業変革プロセス入門』を12月4日発売**

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、DX・事業変革の進め方を解説した書籍『チームでの未来戦略の描き方 はじめてでもできるDX・事業変革プロセス入門』を2024年12月4日（水）に発売いたします。

**■DXは「言うは易く行は難し」**

DXというキーワードが一般的に広く普及している昨今、ざっくりとした取組みと効果を理解されている方は多いでしょう。しかし、「言うは易く行は難し」で、これまで長年の蓄積で作りに上げてきた企業の文化・風土・仕組み、もしくはIT基盤などは、一朝一夕に変わるものではありません。組織自体をトランスフォーメーション（変革）し、収益向上につなげるためには、これまでのやり方・進め方を踏襲するのではなく、推進するアプローチ自体を変える必要があります。

そこで、組織・事業のトランスフォーメーション（変革）を推進していくための実践ポイントを解説した本書を企画しました。

■DX・事業変革がうまくいく進め方がわかる本

DXと事業変革が成功するために必要なポイントとノウハウを解説。DXは広まりつつあるものの、企業の文化やIT基盤を短期間で変えるのは難しく、効果的なアプローチが必要です。アジャイル開発・コンサルティングの経験豊富な筆者による成功のための3つのポイント、

- ・『目指すべきゴールの策定・共有による【ビジョン明確化】』
- ・『短サイクルアプローチによる【変化に適応したリズム展開】』
- ・『自分化と周りを巻き込んだ【チーム化による推進一体化】』

を実践する方法を徹底解説しています。これからデジタル改革を始める方、もしくは推進しているものの

思ったように進まない方にオススメの一冊です。

■本書は以下のような方におすすめです

○DXに関わる人／DXを検討する人すべて

- ・DX推進担当者（経営／ビジネス部門から開発部門まで）
- ・新規事業、新規ビジネス創造をミッションとしている担当者
- ・これらを推進している、または始めようと思う企業の経営者
- ・これらを推進するメンバーを部下に持つ中堅クラスのマネージャー、およびPO／チームリーダーなど現場のITエンジニア
- ・これらを推進している、または始めようと思う企業の経営企画担当者
- ・DX人材、または組織改革人材を育成する担当者

1-0 **いますぐ知りたい
第1章の読みどころは？**

未来を描くこの章のエッセンス

この章では、新規チャレンジを推進するための「3つの流れ」を紹介し、業務改革を推進するためにコアとなる「3つの軸」を解説します。3つの軸はそれぞれ第2章～第6章で具体的に説明しますが、第1章では、推進時によくある失敗を念頭に、推進するうえで大切にすべきことを考えます。

本書のベースを感じていただきながら、新規チャレンジプロジェクト推進の拠り所をつかむことができます。

本書では、新規ビジネス創造や業務改革などの取り組みにおいて、実際に推進していくみなさんに役立つように、新規チャレンジを推進するための3つの流れに合わせて、それらの具体的な活動内容を紹介していきます。

まずは、新規チャレンジを推進するための一般的な3つの流れを確認しておきましょう。

激しい社会変化に対する新規チャレンジでは、開始段階から明確な答えを定義できているわけではありません。そのため、新規ビジネス創造や業務改革は、目指すべき姿を探し出し（**理解と共感**）、仮説を定義し（**仮説定義**）、考えた仮説を検証していく（**仮説検証**）という3つの流れで進めていきます。

- ① **【理解と共感】**：なにをどのように創造・変革しようとしているのか、方向性を実現するメリットも含め理解・共感する

- ② **【仮説定義】**：①で共感した内容から具体的な目標を立て、どのように実現するのという課題とニーズを洗い出し、具体的な仮説として定義する
- ③ **【仮説検証】**：②で定義した仮説をもとに、実際に動作するシステムやサービスを作り上げ、仮説は正しいのか、変革につながるのかを検証しながら完成させていく

それぞれの「実施目的」「完了判断基準」「おもな成果物」は、図1-1のとおりです。

	① 理解と共感	② 仮説定義	③ 仮説検証
実施目的	変革の方向性を共有	実現内容を仮説として定義	仮説定義した内容を検証
完了判断基準	ステークホルダーやメンバーが変革方針に共感し、合意している	目指すべき姿が定義され、どのように実現するかが目録も含めて定義されている	定義された仮説の実証検証により、変革が確実に効果を出せる形で完成されている
おもな成果物	・自社における課題の洗い出し ・方針書 ・活動の背景となる基礎データ	・ビジョン/目標/戦略 ・現状分析結果 ・要求定義書 ・運用手順書	・検証実施計画 ・検証対象システム ・検証結果 ・フィードバック結果

●図1-1 新規チャレンジを推進するための3つの流れと活動

本書ではこの3つの流れをベースに、新規ビジネス創造や業務改革について、各章で具体的にどのようにアプローチするのかをみなさんと一緒に考えていきます。

第1章の「事業改革を進めるための3つの軸」では、この3つの流れにどのように立ち向かうのかを考えます。まずは本書のベースとなる考えである「3つの軸」について説明し、それ以降の章につなげます。

第2章、第3章では1つ目の軸である「目指すべきゴールの策定・共有によるビジョンの明確化」で、「①理解と共有」「②仮説定義」に

第一章では、事業改革を進める3つの軸について触れていきます

6-1 **「自分ごと化」と「チームごと化」による推進の一体化**

学ぶことが楽しくなる この節のエッセンス

推進活動中に、なぜか、チームメンバーが受け身になってしまうことがあります。リーダーの指示を待つ、遠慮がちで自分の範囲を狭くするといったようなことです。この現状を起きないようにしてくれるのが「**パッション**」です。

この節では、「**パッション**」がなぜ効果を出すのか、どんなメリットがあるのか、どうすればチームで共有できるのかを「自分ごと化」「チームごと化」とつなぎ合わせながら学びます。これまで「チームの雰囲気の良い」「会社の風土」として、あきらめかけていたチームの**パッション**不足も解決できます。

6-1-1 チームで推進したいのに、メンバーが受け身になってしまう原因とは？

新規ビジネス創造や業務改革を推進するために、推進チーム全体のパワーを引き出して、全員と協力しながら、効果的に進めていきたいという思いは誰しもあるはずですが、とはいえ、チーム全員で一致団結して進めたいのに、一筋縄には行かないということも多いでしょう。いろいろな課題が発生しますが、とくに影響があるのは、推進リーダーも含めて数人は前向きにチャレンジしようという思いを持っているのに、ほかのメンバーがなんとなく空回りして受け身になって

しまっている場合です。そのような場合、受け身になっている個人に対して改善を試みようと考えてしまいがちです。しかし大半の場合は、個人ではなくチームの進め方のプロセス自体に問題があります。

チームメンバーが受け身になっている状況を分析すると、「リーダーシップが不足している」「役割と責任が不明確になっている」「発生した課題に対する対策が遅い」などのプロジェクトマネジメントとしての分析になることが多いでしょう。もちろん、その要因もありませんし、それぞれの課題点を分析し、改善することで好転する要素も多いです。しかし筆者の経験上、その奥にある根本的な問題を考えてみると、これまで説明してきた**新しいチャレンジにおける「Will」の伝達と共有・共感のプロセス**に問題を抱えている場合が多いようです。

新しいチャレンジだからこそ、モチベーションが高く前向きで、いろいろなスキルを持っていて、新しいことに興味を持つようなメンバーを集めてチームを作ったはずですが、ただ、「Will」がうまく共有・共感できていないと、それぞれ違ったスキル・ノウハウを持っているメンバーの一人ひとりの強い思いがつながり合ってなく、意図せず受



●図6-1 それぞれの思いから相互作用が深まる

3つの軸それぞれについて、現場のよくあるパターンとともに解説

■本書の構成

第1章 事業改革を進めるための3つの軸

第2章 目指すべきゴールの策定・共有によるビジョンの明確化 ～ベースの考え方～

- 第3章 目指すべきゴールの策定・共有によるビジョンの明確化 ～推進活動～
第4章 短いサイクルアプローチによる変化に適応した仮説検証 ～ベースの考え方～
第5章 短いサイクルアプローチによる変化に適応した仮説検証 ～推進活動～
第6章 「自分ごと化」と「チームごと化」による推進の一体化

■書誌情報



書名：チームでの未来戦略の描き方 はじめてでもできるDX・事業変革プロセス入門

著者：前川 直也

発売日：2024年12月4日（水）

ページ数：280ページ

サイズ：A5

定価：2,530円（本体2,300円＋税10%）

電子版価格：2,530円（本体2,300円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-02043-1

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295020435>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1122101131>

■著者プロフィール

前川 直也（まえかわ なおや）
株式会社未来戦略室 代表取締役社長
アジャイルコンサルタント

日本コンピューター・システム（現NCS&A）にて業務システム開発を経験後、2002年にアジャイルに出会い、パナソニックにてLUMIX開発でのソフトPMとして大規模組込みアジャイル開発を実現させる。日新システムズにてアジャイルをベースにした組織改革・品質保証・新規ビジネスモデル構築などを実践したのち、デロイトトーマツコンサルティングにて、新規事業創造・DX推進のためのアジャイルコンサルを実践。

2024年から独立し、株式会社 未来戦略室を立ち上げ、新規ビジネス創造、デジタル業務改革に関するコンサルティング、伴走支援、セミナーなどを実施している。

その他、企業や団体、大学でのアジャイルセミナー・ワークショップなども広範囲に実施している。

アジャイル経営カンファレンス実行委員、EdgeTech+ West カンファレンス委員、ソーシャルバリューエンジニアリングコンソシアム設立メンバー。

著書（共著）として、『わかりやすいアジャイル開発の教科書』（SBクリエイティブ）、『システム開発現場のファシリテーション～メンバーを活かす最強のチームづくり』（技術評論社）などがある。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。